

研究計画概要

助成年度・種別	2018年度 若手研究助成
研究者	本間 優子
所属	新潟青陵大学
研究テーマ	少年院入所中の非行少年に対する道徳教育プログラムの効果の検証
研究計画概要	<p>役割取得能力とは、自己の立場からだけでなく、他者の立場に立ち、相手の感情や思考を理解することのできる能力である (Selman, 1976)。その発達に伴い、自己中心性が低減し、他者理解が進むことから、役割取得能力は社会生活において個人が適応するために必要な能力である(Barnes-Holmes, McHugh, & Barnes-Holmes, 2004)。</p> <p>Chandler(1973)は非行少年の役割取得能力をトレーニングするプログラムを実施し、その発達段階が向上することを示した。さらにプログラム終了後、1年半の追跡調査を行い、対象者において犯罪件数が減少したことを示している。</p> <p>Chandler(1973)の研究からは40年余りが過ぎているが、入所者に対する継続的なプログラム実施の難しさから、少年院における研究蓄積は未だ極めて少ない。役割取得能力を高めることは、問題行動を抑制するだけでなく、退所後の少年の社会生活における人間関係の構築にも役立つと考えられ、有益である。プログラムの有用性を示し、より多くの少年院で矯正教育の一環として取り入れてもらうことが望ましい。</p> <p>そこで本研究は少年院に入所中の非行少年に対し、役割取得能力の発達段階の促進を目的とした道徳教育プログラムを継続的に実施し、その効果を検証することを目的とした。</p>
選考委員からのコメント	<p>非行少年の「役割取得能力」の未熟さに注目し、その発達段階を向上させるための道徳教育プログラムの効果を、少年院入所中の非行少年に対する調査によって実証しようとする研究である。海外における先行研究では、役割取得能力のトレーニングによって犯罪件数が減少したことが示されており、わが国での実証が待たれる。研究計画は堅実で、また準備状況も良好であることから、成果に期待している。</p>